

野村兼太郎 のりむらう 経済史學者、経済學博士。明治二十九年二月二十日東京市日本橋區濱町生れ、昭和二十五年六月二十一日歿（八六―九六）。大正七年慶應義塾大學理財科卒。十一年歐洲留學、十四年慶應大学教授、のち経済學部長、圖書館長を歴任。昭和五年社會經濟史學會を興し、代表理事となる。初の経済研日學を專攻し、経済史に轉じた。

譯書『ロビンソン』英國經濟史及學說（上巻・大正十一年七月五日、全一册・昭和七年四月五日岩波書店）、『社會生活と理想哲學』（大正十年十月二十九日下出書店）、『歐洲印象記』（昭和二年六月十四日日本評論社）、『むむのことごと』（昭和十五年十一月二十八日ダイヤモンド社）、『維新前後』（昭和十五年四月二十日日本評論社）『經濟全書』（）、『江戸時代の經世家』（昭和十七年四月二十日ダイヤモンド社）、改題再刻『近世日本の經世家』（二十二年八月二十日泉文堂）、『探史餘瀝』（昭和十八年六月二十日ダイヤモンド社）、『筆』文化建設（昭和二十一年四月、二十日慶應出版社）、『編譯論言の根本理念』（昭和二十二年二月、二十日東洋經濟新報社）『東洋經濟講座叢書』（）等。

